



NAKANIHON AUTOMOTIVE COLLEGE

学友会 会報

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505-0077 岐阜県加茂郡坂祝町深菅1301
TEL<0574>26-7121 FAX<0574>26-0840

第21号

URL ▶ <http://www.f4.dion.ne.jp/~gakuyu/> E-mail ▶ gakuyu@f4.dion.ne.jp 学友会直通 070-5646-9113



会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学 学友会会長 丹 地 章 夫



本年も会報発刊の時期となりました。会員の皆様方には、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成十三年度の事業計画も順調に実施されており、ここに報告申し上げます。

平成十三年度は中日本自動車短期大学にとりましても、私達学友会にとりましても、記念すべき大事業達成の年となりました。すでにテレビ、新聞等でご存じの方も多いことと思いますが、日中伊共同ソーラーカーシルクロード走行達成です。

我々の想像をはるかに超える過酷な環境のもと、一人の若者の夢が周りの様々な人々の支えと協力を得、一大イベントとして成功を収め、それを私自身も身をもって実感できました。このことを心より嬉しく思っております。また会員の皆様方には、この趣旨にご賛同いただき、多数のご寄付を頂きましたことを心より御礼申し上げます。

去る二月、中日本自動車短大において学友会としての寄付を合わせて一助となるよう贈呈式も執り行われましたことも併せてご報告いたします。

今、世の中には雲が立ち込めるがごとく、暗澹としています。夢を持つことが如何に大切か、その夢に向かって努力してゆくことが如何に大変だけれども美しいことであるか、そして、それが実現されたときの喜びが如何に大きいものであるのかというとき、このことを通して私自身、改めてより強く感じることができました。

このイベントに関わった皆さんのこれからは、きっと光り輝く人生になるであろうことを信じています。迷ったときは、必ず原点に立ち返ってください。そして、力強い確かな次の一步を踏み出してください。輝きを本当にありがとうございます。

さて、これまで幾度となく申し上げて参りましたが、中日本自動車短大も志願者数減という厳しい状況にある現状です。学生募集に対し、会員皆様の一層のご協力、ご支援をよりしくお願い申し上げます。詳細につきましては学友会事務局までお問い合わせ下さい。また、卒業生の就職に対しても、諸兄のご指導とお力添えを重ねてお願いいたします。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大なご協力、ご援助を賜りました大学関係者、ならびにOB諸兄に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。





ご挨拶

中日本自動車短期大学

学長 脇 俊 隆

緑が山々に映え、自然も芽吹く季節となりました。同窓各位におかれては、益々ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

昨年は、日・中・伊共同シルクロード走破事業に対して様々なご支援を頂き深く感謝の意を表します。この事業も無事終わり、日・中・伊の親交を更に深め、学生の教育にも大いに役立ち大変多くの成果を取ることができました。

また、帰国後は、各メディアの取材や公開展示の依頼が増え、社会的にも好評を博することとなり、本学の社会的地位を大いに高めることができ、大変嬉しく思っています。

さて、私どもの学校は、今、創立三十五年を迎えるなかで、大きな社会の二つの流れに直面し、その舵取りに苦慮しているところであります。

ひとつは、十八歳人口の減少に伴う定員確保の不安。今ひとつは文部科学省が従来進めていた護送船団方式の教育機関保護政策から自由競争へと政策転換していることです。

となく今日に至ったものです。

本学もその中にあり、大変厳しい状況下にあります。しかし、幸いなことに、自動車という日本の基幹産業を支える教育分野にあり、また、一万九千余人の卒業生が社会で活躍している点で、本学を支える環境が十分あると思えます。このことから、本学の社会的存在意義を分かりやすく社会に発表し支持を得る教育努力が進められれば十分存続できるものと思っております。

それは①従来の特化教育を更に鮮明にする(整備・販売・リサイクルを中心とした教育)②地域社会で求められる教育に対応する(社会人・生涯学習)③国際化に対応した教育を採用するの三つを関連強化し、教育機関としての社会的評価を高めることによつて生き残り期待できると考えています。それ故、現在ここに学ぶ学友と、卒業生並びにそれらに関わる人々の援助と協力がより必要になるものと思えます。

今後とも、今までもましてご協力をお願いします。



入学生数六〇三名

中日本自動車短期大学

事務局長 岡 田 俊 治

学友会の皆様、日頃は母校に対して多大なご支援をいただき、有り難く厚くお礼申し上げます。

今年度の入学生は、十八才人口減少期の他、経済的にも厳しい環境の中であつても六〇三名となり、二年連続して入学定員六〇〇名を確保することができました。毎年学友会の皆様にお願ひしております同窓生推薦入学試験には三八名もの応募がありました。おかげさまで年々応募者が増加しており、これもひとえに学友会の皆様方のご理解とご助力の賜物と感謝いたしております。

昨年九月には、学友会の皆様のご協力により、手作りソーラーカーで中国のシルクロードを走行する実験を行うことができました。そのソーラーカーと同型機の贈呈式を、中国・イタリヤの関係各位と共に丹地学友会長にもご参列いただき、四月四日に行いました。

今年度は、従来の中国協定校からの研修生の受け入れの他、フェラーリ工業専門学校との交換留学生の推進、ヨーロッパ研修旅行に加えてアメリカ研修旅行の実施など、益々国際交流が活発に行われます。

一方、現在話題となっている一

同窓生推薦入学試験の実施について

「同窓生推薦入学試験」は、同窓生の推薦があれば、高等学校長の推薦書は必要ありません。また、選抜方法は「面接」のみになります。

また、中日本自動車短期大学卒業生のご子息・ご息女を推薦された場合は、入学金20万円を全額免除、卒業生または在学生の紹介による推薦の場合は入学金の半額(10万円)が免除になります。

皆様のご子息・ご息女、兄弟姉妹、友人・知人の方々の中で、本学に入学を希望される方がいらっしゃれば、ぜひこの入試制度をご活用下さい。

くわしくは、連絡綴りをご覧ください。

最後に、学友会の皆様の益々のご活躍とご繁栄を祈念申し上げます。

OB近況



専攻科第七期生 田浦謙一さん

学友会の皆様、私は第七期自動車工学専攻科を卒業しました。今、自動車の小物ばね(エンジンのバルブスプリングやホースクリップ等)を製造している会社に勤めています。専攻科を卒業して一年が経ち、最近ようやく学生気分が抜けて、社会人としての自覚と責任感が自分の中で芽生えてきました。社会人一年目の時は、多くの上司や先輩方にたくさんのご指導していただきながら、少しでも早く足手まといにならざるために、がむしゃらに仕事をしてみました。二年目の今年は、専攻科で学んだ自動車に関する専門的な知識を生かしながら、自分自身の技術を伸ばし、ばねに関する知識をより深く勉強して、一流のばねの技術者に早くなれるように努力しています。しかし、当然のことかも知れませんが、まだまだ自分の仕事に対する達成感に満足いくものを得られていません。今の時代は実力のあるものが上にある実力社会だ、と会社の上司は言っていました。「初心忘れるべからず」という古い言葉通り、今後、継続して努力を続けていきます。

最後になりましたが、学友会の

在学生より

皆様方の益々のご活躍とご発展を
祈念いたします。



専攻科
岡本和之さん

専攻科車体整備専攻に入学し一年が経ちました。新しい友達や学生思いの良い先生方にも恵まれ、楽しく充実した学生生活を送っています。

車体整備専攻では、本科二年間で学べなかつた板金や塗装、フレーム修正などの実習があり、どれもこれも一からなので、新一年生みたいな気持ちです。
実習は思った以上に難しいですね。何が難しいかという点、知識だけではパーフェクトにはできないということだと思います。板金にしても塗装にしても「Feeling」が大切なんです。何度も何度も繰り返しやってみて、体に覚えさせるしかないと思えます。

これから一年間で身につけられるだけ身につけ、直した部分からいかないくらいは技術を修得し、自分にとって財産になるよう一日一日を大切に、自動車車体整備士資格取得を目標に一生懸命がんばっていききたいと思えます。



二年生
稲垣涼介さん

中日本自動車短期大学に入学して、あつという間に一年が過ぎました。たくさん個性豊かな仲間ができて、毎日が楽しい学生生活です。

一年間を通して一番楽しかった授業は実習です。最初は何も分からず、分解、組み立てなど授業についていくのが精一杯でした。学校にも授業にも慣れてきたら、自分の中で不思議に思ったこと、どうしても納得のいかないことは調べ、ときに先生に聞くなどして充実した授業にすることができました。全ての授業が選択なので自分の興味のあるものを選んで学ぶことができるので、とても興味を持って授業に参加することができました。二年生の学校生活も、一年時と同様にあつという間に過ぎてしまつたかもしれません、その日その日を大事にして、自分の目標をしっかりと持ち、それと共に二級整備士の資格取得を目指し、仲間と共に楽しく過ごして、最後にみんなで笑いたいと思います。



一年生
村松俊輔さん

この中日本自動車短期大学に入学してから、あつという間に一ヶ月が経ちました。入学する前は、学校のことや下宿のことで不安だらけでした。

いざ入学すると、その不安は的中し、とても大変でした。授業の方は高校が普通科だったので、ほぼ全ての授業が初めてやることばかりでした。

しかし、この一ヶ月で学校や一人暮らしにも慣れてきて、結構楽しくやっています。
いろいろな授業がある中で、今一番楽しいのはやはり「実習」です。色々な部品を覚えるのは大変ですが、分解や組み立てなどとても楽しいです。でも、自分たちの班はなぜか一番終わるのが遅いです。そして次から「実習」が「シーゼンエンジン」から「シャシ」に変わるのでも楽しみます。ほかにも「自動車数学演習」などおもしろい授業があり、とても楽しいです。

これから二年間という短い期間ですが、この中日本自動車短期大学で一生懸命勉強をして、この学校にきた最大の目的である「二級自動車整備士」の資格を絶対に取りたいと思います。

認定試験の合格率

技術研修課



毎年行われる二級自動車整備士認定試験の結果を報告します。

今年も第三十四期の学生が三月二十四日に受験しました。

合格率は二級ガソリンでは89・7%、二級ジーゼルでは75・7%となりました。

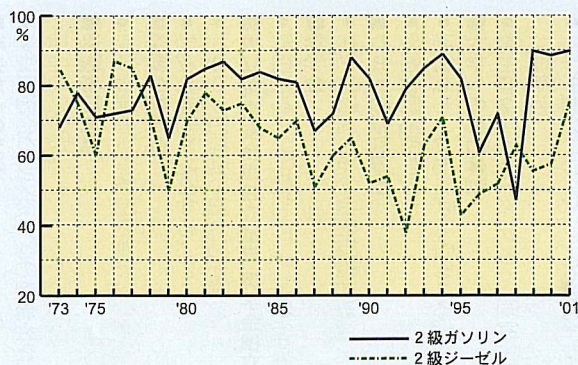
二級ガソリンにおいては惜しくも90%には僅かに届きませんでした。したが、三年続けて88%超のハイレベルな合格率となりました。

しかも二級ジーゼルの合格率は昨年を大きく上回る75・7%というよい成果を上げることができました。

整備士になりたいという学生の希望がかなうよう、また教育する側としてマンネリ化に陥らざる一層の努力をし、来年こそは念願の90%以上の合格率が得られるよう、教職員一丸となって全力で取り組んでいきたいと思っております。

最後に、学友会の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。

【認定試験合格率の推移】



学友会では、会員の皆様と交流を図るため、ホームページを開設しています。アクセスをお待ちしています。また、メールアドレスも取得していますので、ご利用ください。

URL
http://www.ft.dion.ne.jp/~gakuyu/
E-mail▶gakuyu@ft.dion.ne.jp

編集スタッフより

学友会会報二十一号発刊にあたり、ご協力いただきました方々に心より厚く御礼申し上げます。

2000年度 収支計算書

2000年8月1日～2001年7月31日(単位:円)

科 目	当 期			前 期 決 算 額
	予 算 額	決 算 額	差 額	
収入の部				
基本財産運用収入	60,000	55,964	4,036	60,662
会費・入会金収入	10,500,000	10,080,000	420,000	10,025,000
事業収入	0	0	0	0
雑収入	20,000	24,813	▲ 4,813	168,116
受取利息	20,000	24,203	▲ 4,203	20,581
雑収入	0	610	▲ 610	147,535
ソーラーカー寄付金収入	0	1,424,000	▲ 1,424,000	
当期収入合計(A)	10,580,000	11,584,777	▲ 1,004,777	10,253,778
前期繰越収支差額	29,317,617	29,317,617	0	33,893,058
収入合計(B)	39,897,617	40,902,394	▲ 1,004,777	44,146,836
支出の部				
事業費	5,235,000	4,895,644	339,356	5,960,807
会報制作費	1,720,000	1,824,591	▲ 104,591	1,704,135
特別企画費	0	0	0	0
記念品費	1,750,000	1,828,260	▲ 78,260	1,729,350
支部活動費	300,000	0	300,000	864,222
広報費	150,000	7,119	142,881	120,750
補助金	300,000	50,000	250,000	639,550
福利費	600,000	628,300	▲ 28,300	598,000
奨学金	300,000	400,000	▲ 100,000	300,000
事業雑費	5,000	7,560	▲ 2,560	4,800
名簿改訂準備金	10,000	55,083	▲ 45,083	0
エコノパワー協賛金	100,000	94,731	5,269	0
会議費	1,880,000	1,322,618	557,382	1,855,492
総会費	300,000	263,570	36,430	285,053
役員会費	180,000	134,648	45,352	162,319
役員会旅費	1,400,000	924,400	475,600	1,408,120
事務費	2,850,000	3,968,922	▲ 1,118,922	2,669,189
人件費	410,000	410,000	0	410,000
通信印刷費	1,900,000	3,203,313	▲ 1,303,313	1,859,753
事務用品費	50,000	5,334	44,666	45,120
事務雑費	100,000	10,845	89,155	121,516
事務機器リース費	390,000	315,120	74,880	232,800
ソーラーカー寄付金振込料	0	24,310	▲ 24,310	
雑支出	30,000	71,648	▲ 41,648	11,648
慶弔費	10,000	1,648	8,352	11,648
退職者慰労金	20,000	70,000	▲ 50,000	0
固定資産取得支出	0	0	0	246,000
器具備品	0	0	0	246,000
基金財産設定支出	0	0	0	0
運用収入正味財産繰入	60,000	55,964	4,036	60,662
予備費	200,000	0	200,000	0
当期支出合計(C)	10,255,000	10,314,796	▲ 59,796	10,803,798
当期収支差額(A)-(C)	▲ 325,000	1,269,981	▲ 944,981	▲ 550,020
前期正味財産修正		54,000	▲ 54,000	3,859,601
次期繰越収支差額(B)-(C)	29,642,617	30,641,598	▲ 998,981	29,317,617

2000年度 貸借対照表

2001年7月31日現在(単位:円)

科 目	1999年度 (A)	2000年度 (B)	増 減 (B)-(A)
資産の部			
流動資産	29,427,527	30,657,698	1,230,171
現金	148,490	49,899	▲ 98,591
普通預金	10,345,290	10,257,450	▲ 87,840
定期預金	18,933,747	18,950,659	16,912
その他預貯金	0	1,399,690	1,399,690
固定資産	44,435,020	44,490,984	55,964
特定目的資産	42,711,309	42,767,273	55,964
学友会館建設定期預金	27,749,752	27,787,731	37,979
奨学金積立定期預金	14,961,557	14,979,542	17,985
有形固定資産	1,723,711	1,723,711	0
器具備品	1,723,711	1,723,711	0
資産の合計	73,862,547	75,148,682	1,286,135
負債および正味財産の部			
負債	55,910	16,100	▲ 39,810
流動負債	55,910	16,100	▲ 39,810
未払金	55,910	16,100	▲ 39,810
正味財産	73,806,637	75,132,582	1,325,945
(うち特定目的資産)	42,711,309	42,767,273	55,964
(うち正味財産増加額)	▲ 243,358	1,325,945	1,569,303
負債および正味財産の合計	73,862,547	75,148,682	1,286,135

監 査 報 告 書

2001年度の学友会会計に関し、貸借対照表および収支計算書を平成13年9月17日に総勘定元帳及び各種帳票類と照合し監査した結果、適法且つ適切でありました。

監査役 吉田豊彦



監査役 榊原和明



◀(注) 今期において決算書の相互関連をより明らかにするため、前期損益修正として一部組み替えて表示している。

2001年度

事業計画

- 総会の開催
 - 本学近辺で開催する。開催場所、日程については役員会にて決定する。
- 会報の発行
 - 例年通り発行する。
- 学友会ホームページ
 - より充実させる。
- 支部活動
 - 積極的な取り組みを展開する。また、既存の支部の活性化を図る。
- キャンパスグッズ
 - 活用方法を検討する。
- 学園・大学との懇談
 - 理事や大学執行部との懇談会を行う。
- 準会員との交流
 - 学生自治会クラブ役員との交流会を10月中旬に予定。
- 退職者記念品
 - 定年退職者へ記念品を贈る。
- 卒業生記念品
 - 学友会規約を配布する。
- 3000円程度の記念品を贈る。
- 積立金学友会館設立積立奨学金積立
 - 継続する。(財政状況により決定する)
- 奨学金
 - 在学生に対し奨学金を支給する。
- OBへの福利厚生
 - 長島温泉割引を行う。
- 適切なものがあれば随時考える。
- 大学への協力体制
 - 学生募集への協力をすすめる。(同窓生子女推薦等)
- 大学主催のエコノパワー大会に学友会として協賛する。(賞品等)
- 特別事業
 - 一日中伊友好ソーラーカーシルクロード横断に協力する。